

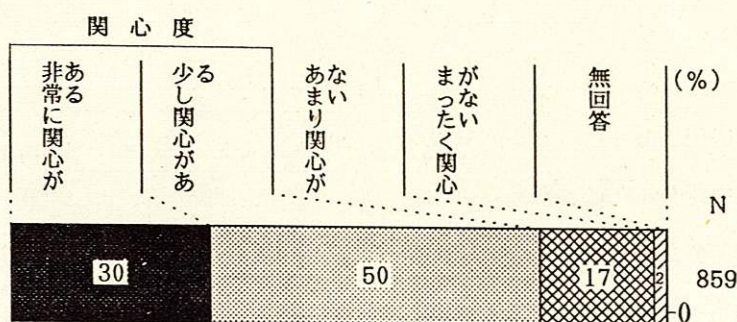
7. 国際化社会

7-1. 外国での出来事に対する関心

◎「関心がある」人は80%。

問15 あなたは、日本と外国との関係や外国の出来事について、どの程度関心をもっていますか。

図7-1

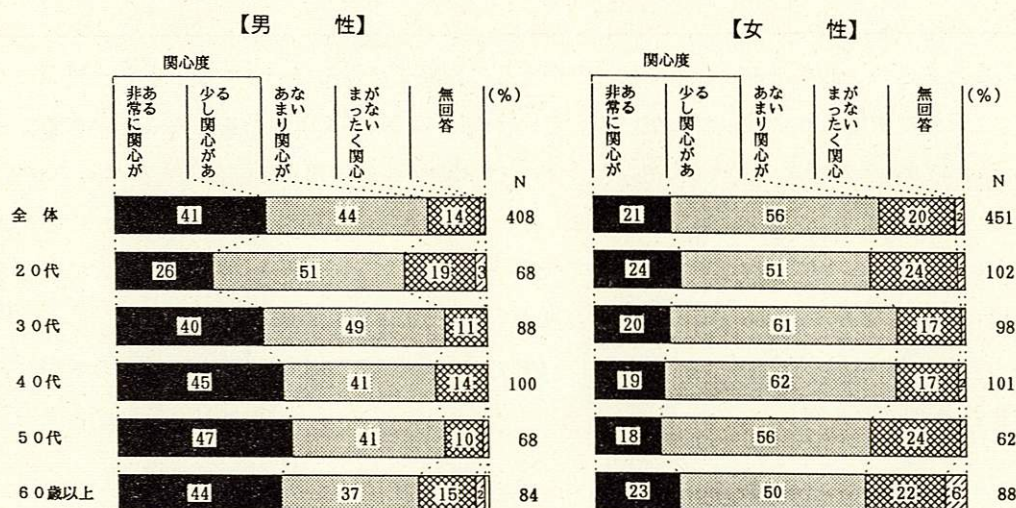


「日本と外国との関係や外国の出来事について」、「非常に関心がある」人は30%、「少し関心がある」人は50%、合わせて80%の人が関心を示している。「あまり関心がない」という人は17%、「全く関心がない」という人は2%である(図7-1)。

外国の出来事への関心度は、全体的に女性よりも男性のほうが高くなっている。また、女性の場合、「非常に関心がある」という人が男性と比べて少なくなっていることも注目される。

男性の場合、20歳代と60歳代以上で関心度が比較的低くなっている。女性の場合でも同じように20歳代と50歳以上で関心度がほかの年齢層よりも低くなっている傾向が見られる。女性でもっとも関心度が高い年齢層は30~40歳代である(図7-2)。

図7-2 性別・性年齢別 外国での出来事に対する関心

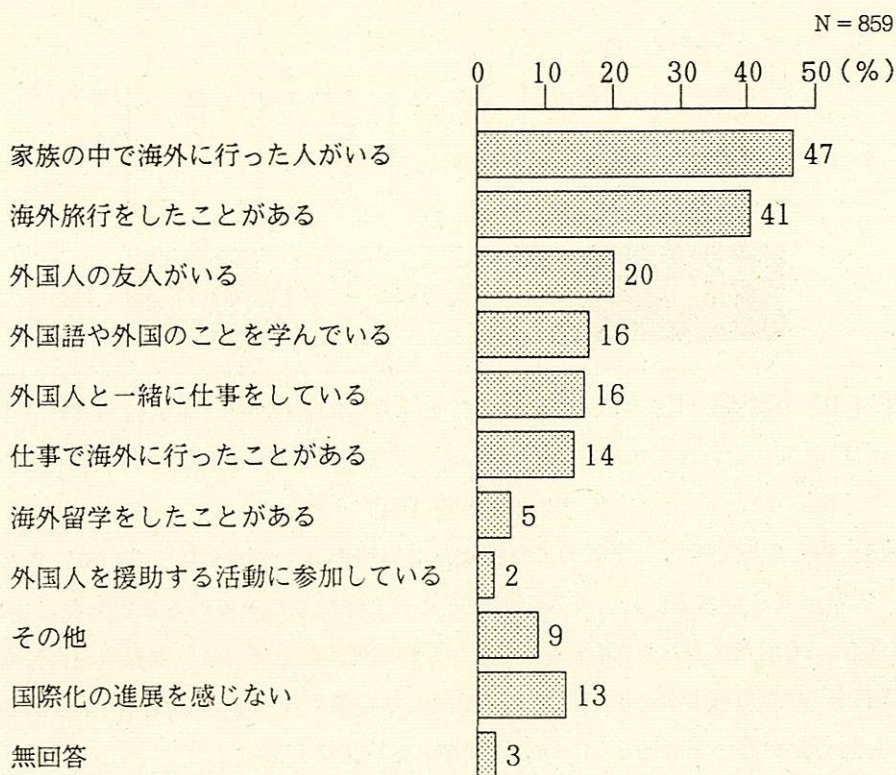


7-2. あなたのまわりの国際化

◎「家族の中で海外に行った人がある」→47%、「海外旅行をしたことがある」→41%

問16 あなたを含め、あなたのまわりでは、どのように国際化が進んでいますか。この中からいくつかもあげてください。

図7-3



「あなたを含め、あなたのまわりでは、どのように国際化が進んでいますか」という質問に対して、「家族の中で海外に行った人がある」という人は47%、「海外旅行をしたことがある」という人は41%、「外国人の友人がいる」という人は20%、「外国語や外国のことを学んでいる」という人、「外国人と一緒に仕事をしている」という人は16%、「仕事で海外に行ったことがある」という人は14%だった。「海外留学をしたことがある」という人(5%)、「外国人を援助する活動に参加している」という人(2%)は少ない。また、「国際化の進展を感じない」という人が13%いることも注目される。なお、「その他」には、国際結婚、外国人労働者の増加などが含まれる(図7-3)。

「家族の中で海外に行った人がある」という人は、男性よりも女性に多い。また、20～30歳の男性では目立って少なくなっている。「海外旅行をしたことがある」という人は、男女とも若年層で多く、20～30歳代で全回答者の半数以上を占めている。「外国人の友人がいる」という人は50歳代の男性（29%）で目立っている。「外国語や外国のことを学んでいる」という人、「外国人と一緒に仕事をしている」という人、「仕事で海外に行ったことがある」という人は30歳代の男性で他の性・年齢層よりも多くなっている（図7-4）。

職業別では、事務・技術系勤めの人、「海外旅行をしたことがある」、「仕事で海外に行ったことがある」、「外国人と一緒に仕事をしている」、「外国語や外国のことを学んでいる」のそれぞれで他の職業よりも割合が高くなっている（図7-5）。

図7-4 性別・性年齢別 あなたのまわりの国際化

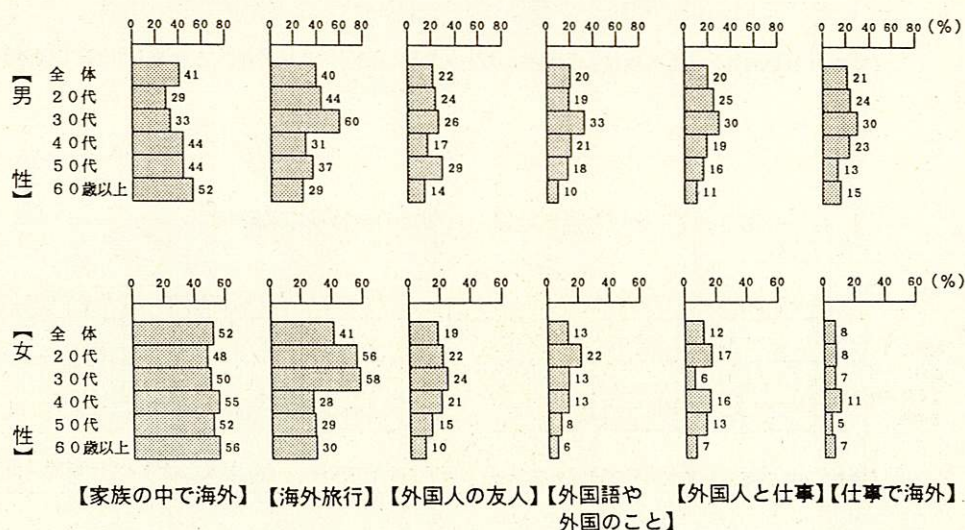
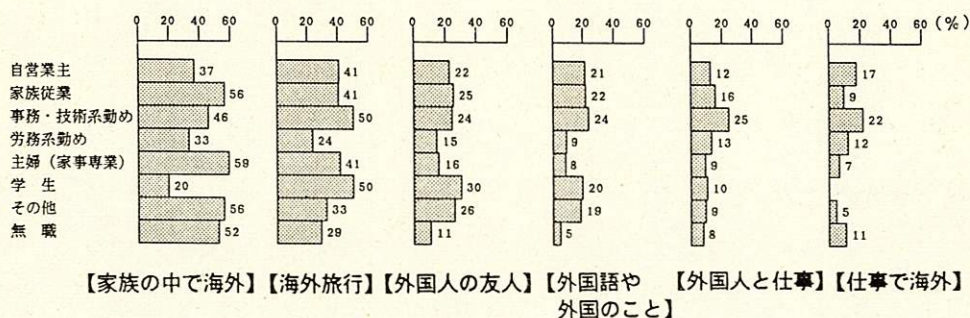


図7-5 職業別 あなたのまわりの国際化



地区別では、Eブロックは5つの項目で他のブロックよりも割合が高くなっている。また、「外国人と一緒に仕事をしている」という人はBブロック（27％）で目立っている（図7-6）。

さらに、都内23区に通勤・通学している人では、「外国語や外国のことを学んでいる」という人は平均の2倍以上の36％に達している（図7-7）。

図7-6 地区別 あなたのまわりの国際化

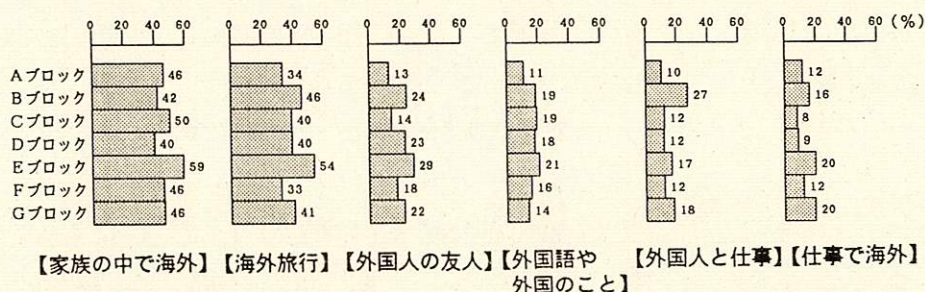
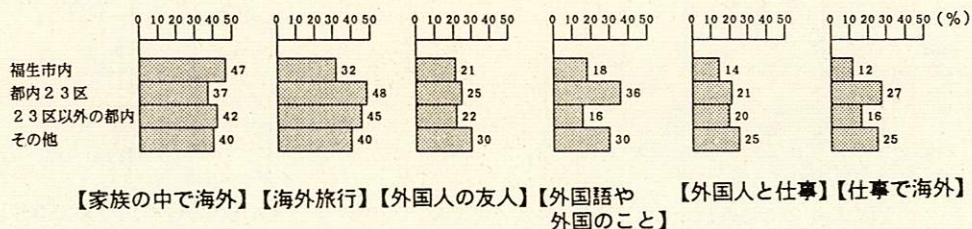


図7-7 通勤・通学地別 あなたのまわりの国際化



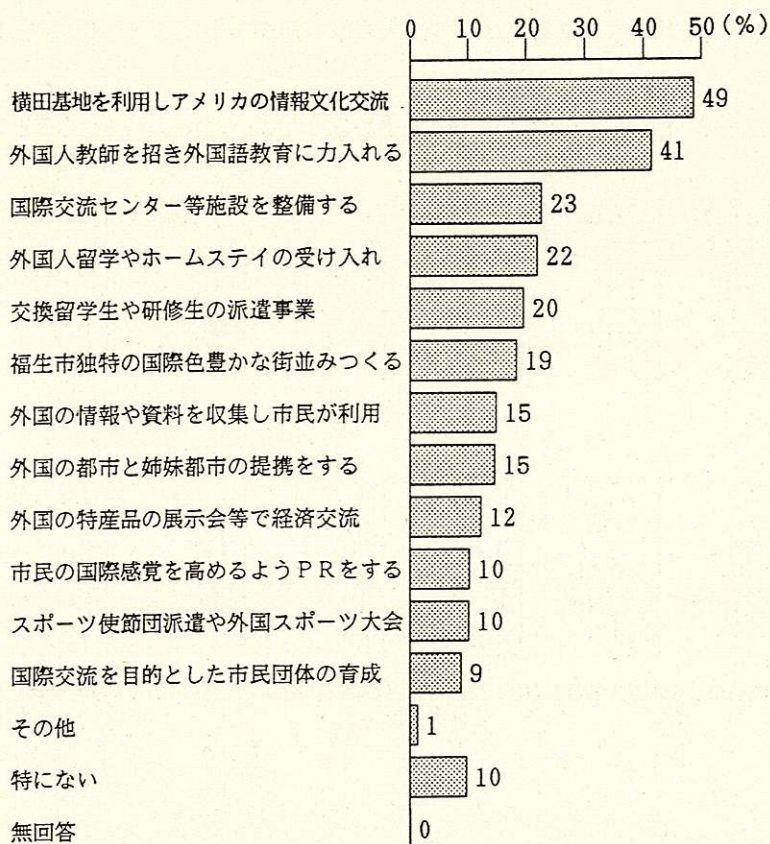
7-3. 国際化を進めるために市が力を入れるべきこと

◎横田基地の利用が49%、外国人教師の招聘が41%。

問17 福生市が国際化を進めていくうえで、特に力を入れるべきだと思うことをこの中から3つまであげてください。

図7-8

N = 859



福生市が国際化を進めるために、「横田基地を利用しアメリカの情報文化交流」に力を入れるべきだという人が49%、「外国人教師を招き外国語教育に力を入れる」べきだという人が41%いた。以下、「国際交流センター等施設を整備する」(23%)、「外国人留学やホームステイの受け入れ」(22%)、「交換留学生や研修生の派遣事業」(20%)、「福生市独特の国際色豊かな街並みをつくる」(19%)、「外国の情報や資料を収集し市民が利用」する、「外国の都市と姉妹都市の提携をする」(15%)、「外国の特産品の展示会等で経済交流」をする(12%)、「市民の国際感覚を高めるようPRをする」、「スポーツ使節団派遣や外国スポーツ大会」(10%)、「国際交流を目的とした市民団体の育成」(9%)が続いている。また、「特にない」という人は10%である(図7-8)。

横田基地の利用は、どの性・年齢層でも40%を超える人が挙げており、とくに20歳代の女性では59%の人が挙げている。外国人教師の招聘は、30～40歳代の女性で60%を超えているが、男女とも60歳代以上の高齢層では少なくなっている。「外国人留学やホームステイの受け入れ」は50歳代の女性で34%の人が選んでいる(図7-9)。

職業別では、横田基地の利用については、無職(34%)と労務系勤め(40%)では、挙げる人が比較的少ない。また、家族従業では、外国人教師の招聘を挙げる人が60%を上回っている(図7-10)。

図7-9 性別・性年齢別 国際化を進めるために市が力を入れるべきこと

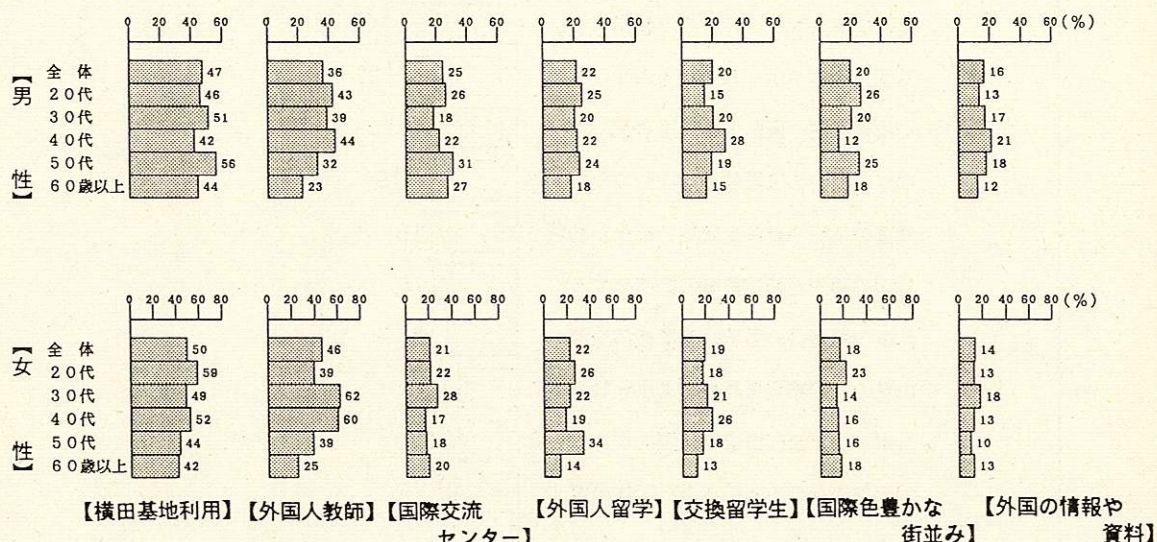
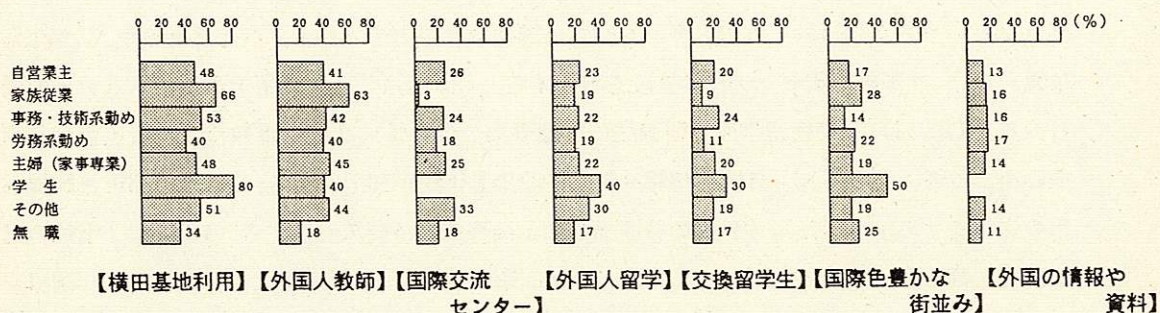
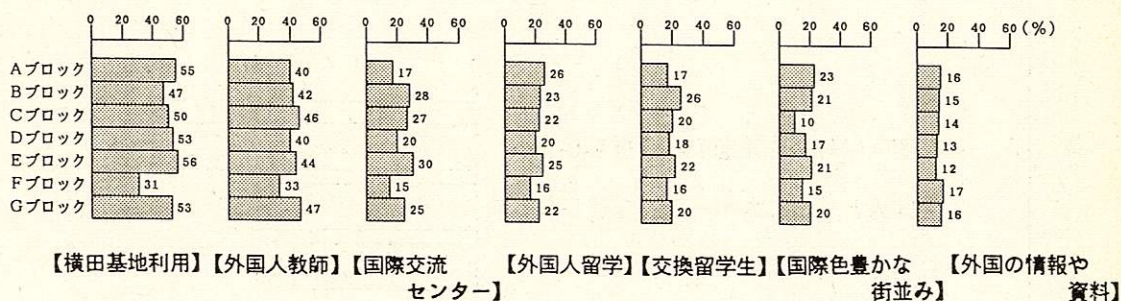


図7-10 職業別 国際化を進めるために市が力を入れるべきこと



横田基地の利用と外国人教師の招聘はどのブロックでも多くの人が挙げているが、Fブロックではそれぞれ31%、33%と比較的少ない（図7-11）。

図7-11 地区別 国際化を進めるために市が力を入れるべきこと



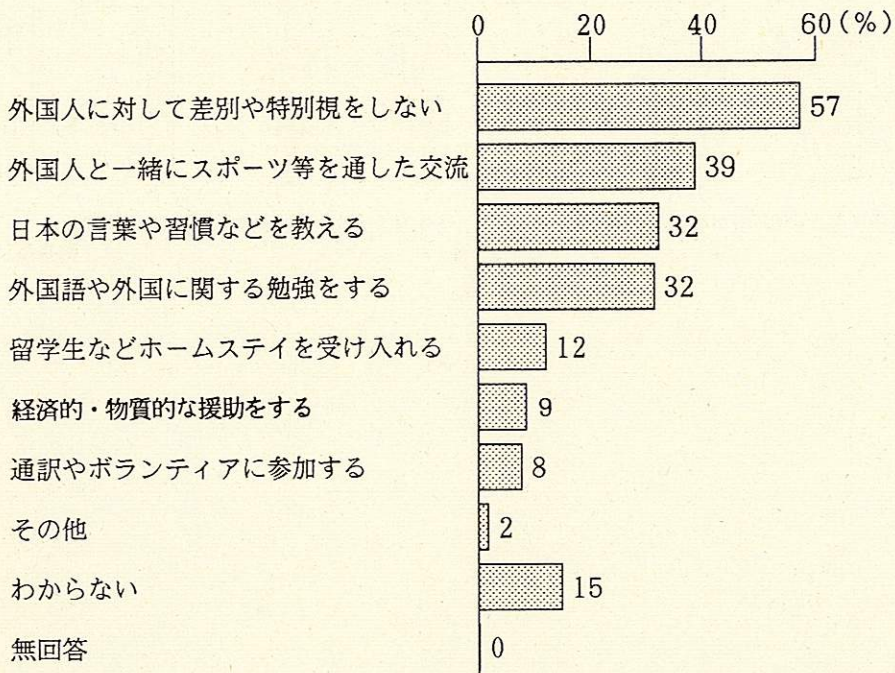
7-4. あなたができる国際交流

◎もっとも多いのは「外国人に対し差別や特別視をしない」こと。

問18 それでは、今後、外国との交流がすすむ中で、あなたは、どのようなことができると思いますか。この中からいくつでもあげてください。

図7-12

N = 859

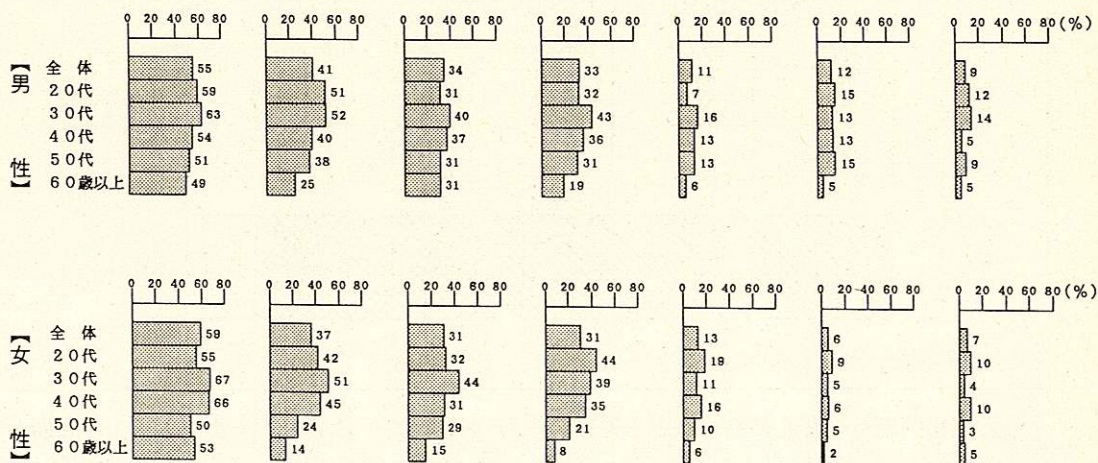


ここでは、国際化の進む中で、自分でできることを質問した。もっとも多かったのは、「外国人に対し差別や特別視をしない」こと（57％）である。次いで、「外国人と一緒にスポーツ等を通じた交流」（39％）、「日本の言葉や習慣などを教える」、「外国語や外国に関する勉強をする」（32％）、「留学生などホームステイを受け入れる」（12％）、「経済的・物質的な援助をする」（9％）、「通訳やボランティアに参加する」（8％）となっている。また、「わからない」という人は15％である（図7-12）。

性・年齢別では、ほとんどの項目で、女性より男性、40歳代以上の中高年齢層より20～30歳の割合が高くなっている傾向が見られる（図7-13）。

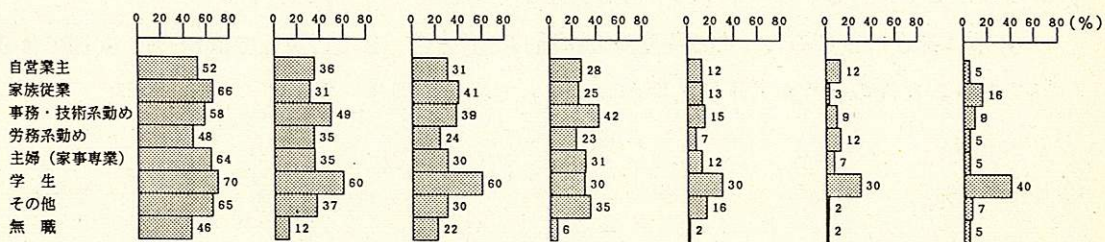
職業別では、事務・技術系勤めの人で「外国語や外国に関する勉強をする」ことを選んだ人が42%と他の職種に比べかなり多くなっている（図7-14）。

図7-13 性別・性年齢別 あなたができる国際交流



【差別や特別視をしない】 【スポーツ等を通じた交流】 【日本の言葉や外国に関する習慣】 【勉強】 【の受け入れ】 【経済・物質的な援助】 【通訳やボランティア】

図7-14 職業別 あなたができる国際交流



【差別や特別視をしない】 【スポーツ等を通じた交流】 【日本の言葉や外国に関する習慣】 【勉強】 【の受け入れ】 【経済・物質的な援助】 【通訳やボランティア】